

带状疱疹って、予防できるの？

带状疱疹ってどんな病気？

带状疱疹は、水痘・^{すいとう}带状疱疹ウイルスによる感染症で、初めて感染すると、水ぼうそう(水痘)を発症します。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体の奥の神経節に潜伏感染し続け、何かのきっかけでウイルスの一部が再活性化して、体の一部に小さな水ぶくれをたくさん作り、痛みを伴うのが带状疱疹です。

治療は、内服あるいは点滴の抗ウイルス薬がいくつかあります。治った後も、水ぶくれができた部位に带状疱疹後神経痛が長く残ることがあり、症状がひどかった人や高齢者では、その頻度が高くなります。

ワクチンによる带状疱疹の予防

日本では2025年度から、带状疱疹ワクチンは公費負担(一部自己負担あり)で接種を受けられる定期接種となり、基本的に65歳を迎える方が対象となっています。2025年度から5年間は経過措置として、その年度に70、75、80、85、90、95、100歳になる方も定期接種の対象となります。これをキャッチアップ接種と言います。

定期接種の他に、50歳以上の方等を対象として、带状疱疹ワクチン接種を公費助成する自治体が増えています。自治体によって、助成額、ワクチンの種類や対象年齢が異なります。

带状疱疹ワクチンには、かなりの予防効果が認められています。現在、日本では、2種類の带状疱疹ワクチン(表)が接種可能ですが、接種するかどうか、どちらのワクチンにするかは、有効性や安全性(副反応)、費用も含めて比較検討して、かかりつけ医に相談して決めましょう。

表 日本で接種可能な2種類の带状疱疹ワクチンの比較

ワクチンの種類	生ワクチン	相換えワクチン
接種回数・投与方法	1回・皮下注射	2ヵ月以上の間隔で2回・筋肉注射
带状疱疹の予防効果 (接種後5年時点)	40%程度の予防効果	90%程度の予防効果
副反応(発現割合)	接種した部位の反応 発赤(30%以上)、かゆみ、熱感、 はれ、痛み(10%以上)	接種した部位の反応 痛み(70%以上)、発赤(30%以上)、 はれ(10%以上)
		全身反応 疲労感、筋肉痛(30%以上)、 発熱、頭痛(10%以上)
接種を受けられない方 接種にあたり注意が必要な方	免疫抑制状態*にある方は、 接種を受けられません。	免疫抑制状態*にある方は、 接種にあたり注意が必要です。

*：病気や治療により免疫機能が低下している状態